

秋落田に対するがた土客入の効果に関する調査

高木 睦夫*・西村 利率*

TAKAKI, M. & NISHIMURA, T. Effect of the Application of Marine Mud to Akiochi Paddy Fields

砂質浅耕土に原因する秋落田に、有明海産のがた土(粘土)を客入すれば増収することは、既によく知られている事実である。以前、吾々はこの方法の適用範囲は、極く狭少区域に限られ広い地域に普及させることは、利益が少くて不適當と考えていた。しかしここ2ヶ年間の実績を調査した結果は、効果が大きく適用地域も相当広く求められるのでまとめて実態を報告する。

1. 調査場所並に方法 がた土採取場所からの最近距離地区と最遠距離地区をえらび、調査票記入方式と聴取調査方式とを併用し、一括して二三の考察を加えた。

2. 調査結果 A. 近距離の場合(諫早市客入済面積208町)

(1) 平年反収別による増収量の比較は第1表の通りである。

(2) 諫早市における各地区の輸送経費並にがた土代金(反当経費)の総平均額は1,930円である。また輸送距離は7~14kmで平均9.5kmとなつている。

(3) 増収量と必要経費の比較は第2表の通り。

B. 遠距離の場合(上波佐見町、客入済面積28町) 前区同様の検討を行うと第3・4表の通りである。

C. 持続効果は全調査点数の殆んどが2年目の効果の確実性を報告している。

3. 考察並に結論 1. 平年反収の低い程増収率は高いが、増収量は変わらない。2. 輸送距離の短い程有利であるが、遠距離の場合は貨車利用によつて適用地域が広がる。3. 持続年数は2年以上は確実である。

第1表 平年反収別の増収量比較

年次	区別	平年反収区別	調査点数	平均平年反収	客入後の平均収量	増収量	増収率
昭和二八年	A	1.2石以下	6	1.03	1.86	0.83	100:180
	B	1.2~1.6石	41	1.51	1.97	0.46	// 130
	C	1.6~2.0石	12	1.77	2.33	0.56	// 132
	D	2.0~2.4石	24	2.09	2.54	0.45	// 121
	E	2.4石以上	1	2.44	3.11	0.67	// 127
		全体	84	1.76	2.36	0.60	// 138
昭和二九年	A	1.2石以下	12	1.18	1.90	0.71	// 161
	B	1.2~1.6石	9	1.47	1.98	0.51	// 134
	C	1.6~2.0石	4	1.87	2.23	0.36	// 119
	D	2.0~2.4石	1	2.40	2.80	0.46	// 116
	E	2.4石以上	2	2.70	2.95	0.25	// 109
		全体	28	1.90	2.37	0.45	// 127
総平均			112	1.84	2.36	0.52	// 132

第2表 増収量と経費の比較

年次	平均増収量	左同金額	必要経費	損益差額	2年目の推計損益	備考
昭・28	0.60	5,677	1,930	3,747	6,317	(米價は石当り9,557円とす。)
昭・29	0.45	4,500	1,930	2,570	—	//
全体	0.52	5,088	1,930	3,158	—	(がた土反当施用量は1,000貫以上。)

第3表 輸送の方法・距離・経費

道程	方法	料数	経費	備考
がた土採取地~諫早駅	トラック	km 4	1,225	がた土代金600円(1,000貫当り)を含む。
諫早駅~川棚駅	貨車	34	1,110	10屯貨車積みのがた土1,000貫当料金。
川棚駅~上波佐見町	トラック	12	1,875	がた土1,000貫当り料金。
合計		50	4,110	反当施用量は1,000貫以上。

第4表 増収量と経費の比較

平均平年反収	客入後の平均反収	増収量	増収金額	差引損益	2年目の推計損益	備考
石 1.75	石 2.05	石 0.30	円 2,867	円 -1,243	円 1,624	昭28,29年の28町歩平均値。

*長崎県農業試験場